

栄光

説教・「小さき富、大いなる住まい」
狩野進之佑牧師…1
特集・私の愛唱
讃美歌…2
狩野進之佑牧師と
の懇談会報告…4
説教・「福音の旅路」
東出英幸神学生…5
追悼・
門田敏子姉…6
一井喜久子姉…6
西南支区「平和
講演会」報告…7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

説教

『小さき富、大いなる住まい』

ルカによる福音書16章1～14節

愛知守山教会牧師 狩野進之佑

主イエスはよく、たとえを用いて話したとされます。この箇所も主イエスのたとえ話のひとつです。この話を聞いたファリサイ派たちの反応が記録されています。「金に執着するファリサイ派の人々が、この一部始終を聞いて、イエスを嘲笑った」(14節)。たとえ話である以上、たとえ話そのものに着目していても、正しく受け取ることはできません。まずはそのたとえによって、主イエスが何を語ろうとしておられるかが大事になります。何を語ろうとしておられるかがわかるとき、たとえ話は同じ内容をより豊かなものとして私たちに伝えてくれるのです。

ただ、この御言葉の厄介などころは、なによりその主イエスがなにを仰ろうとしておられるのか、わかり辛いところにあると思います。たとえ話の直後、8～13節にたとえ話の解説と呼べるものがあります。しかし、この説明も一言ですっぱり言い表せるものはありません。ひとつのたとえ話を、様々な側面から見えています。ですから、主イエスが何を仰ろうとしておられるかを知るには、たとえ話のどこに注目を促しておられるかを丁寧に見ていくことを重ねるほかありません。

まず、主イエスはこのたとえ話に出てくる不正な管理人を「賢い」と評しています。良くも悪くも、この管理人は自分の立場を最大限利用して、彼の目的を果たしました。そこに主イエスは注目しています。1節にある通り、このたとえ話は弟子たちに向けて語られた言葉でした。そうすると、まずこの話は弟子たちに賢くふるまう、うまくやることを求めている言葉であると言えます。

また、主イエスは「ごく小さなことに忠実な者は、大きなことに忠実である」(10節)と仰いました。私たちには管理人のやり方が忠実とは見えないけれども、主イエスはここで忠実と仰います。この管理人が忠実であったところを、敢えて挙げるとするならば、自分や自分の欲望に対する忠実が挙げられると思います。自分には肉体労働なんてできない、物乞いになるのは恥ずかしい、そう言っ自分の生活のためにあらゆるものを利用しました。それは実に欲望に忠実だと言えるものです。

加えて主イエスは、ここで富についてとも言及します。「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」(13節)。自分の金ではないのが引つかかるところですが、たとえ話の管理人は自分の扱える富を用いて、自分のために次の住まいを用意しました。本当に大事なもののために、より小さなものを用いることを躊躇ためらいません。

聖書は私たちも管理人であるかと教えています。「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用いて互いに仕えなさい」(1ペトロ4・10)。私たちが忠実を向ける先は、私たち自身ではなく、神様です。私たちがまた次の住まいを、死の先にある天国を目指して生きています。この私たちの方向性は間違っていない。けれども、このたとえ話の不正な管理人が、自分の欲望に忠実に、自分の立場、他人の富さえ用いていくやり口は、敵わないとも感じます。しかし、世の不正な管理人に、忠実においても、賢さにおいても、負けっぱなしであっては困ります。だからこそ主イエスは、弟子たちに向けてこのたとえを話されたのではないかと思えます。世の人に負けないうで、私たちがまた神様から与えられた場所、与えられた賜物にしがみつくとではなく、それをもつと大きなもの、神と神の国のために用いていきたいと願います。

私の愛唱讃美歌

今年度、9年ぶりに教会員の皆さんに

愛唱讃美歌・愛誦聖句のアンケートに答えていただきました。

沢山ある讃美歌のなかで

特に大切なあなたの愛唱讃美歌は何ですか？



好きな讃美歌

小嶋幸子

今回の愛唱讃美歌選びにはとても時間がかかった。大好きな讃美歌が増えている。年を重ね、心に響き思い深く共鳴する曲が増えたからだ。讃美歌は祈り、たくさんの思いと共にある。

333番『主よわれをばとらえたまえ』は私の結婚式で選んだ愛唱歌。長老就任式の日の礼拝にこの曲があり、心震えた。「母さんはなんちゃってクリスチャンだね」の言葉にハッとさせられ長い間離れていた教会に戻ることが出来た。それでもしっかりとした信仰の根を張ることが出来ていないと感じていた。欠けの多い自分に長老が務められるだろうかと不安いっぱいだった私に、主が手を差し伸べてくださっていると涙が出た。神様は私のことをよくご存知。心の弱い私をもっと真剣にみ言葉に向き合い祈るようにとお役を与え、用い導いてくださるのだと前を向か

せてもらい一層大切になった曲だ。中西洋兄指揮の美しく温かく力強いⅡ191番『主のまことはくしきかな』に感動して聖歌隊に加えていただいた。久しぶりの合唱、声を合わせ讃美歌を歌う喜びは教会に通う原動力の一つでもあった。Ⅱ161番『輝く日を仰ぐとき』も美しいメロディーと詞に心つかまれた曲だ。聖歌隊の練習を通して讃美歌の意味の深さを知り、祈りだという気持ちを深くするようになった。特に298番『やすかれわがこころよ』は夫が病で私自身も苦しかった時に共に歌い励まされ、支えになった。神様に、そして家族や教会の皆さんの祈りとやさしさに支えていただきながら人生の大きな山を乗り越えることが出来た感謝と共にある曲。

461番『主われを愛す』。誰もが知る愛すべき讃美歌。幼稚園の頃からどんな時も心励ましてもらえる曲。年齢を重ね又一層詞が心に響く。散々迷って最後にこの曲を選んだ。家族にきちんと種まきをしてこなかった私が主のことを伝えられる小さな信仰の種になってほしいと祈りを込めて選んだ曲だ。

讃美歌は神の愛

重藤栄子

明治生まれの祖母は、歌が好きな幼児の私に『ジーザス ラブズミー』を歌い聴かせてくれました。とっさに「これは本物に違いない」と感じました。今自分がおばあちゃんになり、孫たちに教えたい唯一のことです。

子どもの頃、家族は皆歌が得意でなかったのですが、母の趣味がピアノだったので、ピアノの音に美しさを求め、勉強しました。讃美歌はとても役に立ったと思います。敬愛するバッハの音楽には、すべてに神の愛がまつていて、まさに神は愛であり、音楽は愛だと感じます。

高校生の頃に経堂北教会で出会った主人は、クラシック音楽好きの義父に音楽の基礎を習っており、やはりクリスチャンホームなので、クリスマスの讃美歌をハモったりでき、幸せなことでした。現在は主人と2人で合唱の経験を

積んでいるところです。

教会聖歌隊では、298番『やすかれわがこころよ』を練習中です。シベリウス作曲の交響詩『フィンランディア』に出てくるメロディーと歌詞が印象的な讃美歌です。この歌を20年以上前、召天者記念礼拝で歌った時、あまりにも父(当時パーキンソン病で闘病中)と歌いたくなくなり、病院のベッドから見えるように大きな字で歌詞を書き、一緒に歌いました。父は歌える状態でないにもかかわらず、その目つきは輝いて希望に溢れていたもので、私の方がびっくりしてしまいました。その生き生きとした表情から、主に守られ、励まされていることを確信しました。

音楽が大の苦手で、身動きもできない父と確かにふたりで歌い、感動したのです。これこそ讃美歌の力だと思いました。ちなみに父の愛唱讃美歌は、461番『主われを愛す』(英語: Jesus I know es me, this I know)です。

私の好きな讃美歌

仲山昌樹

今回、「好きな讃美歌」についてのアンケートがあり、私の好きな讃美歌のひとつに、讃美歌531番を選びました。他にも良いと思う讃美歌はあると思いますが、8月11日平和聖日当日に歌った讃美歌が心に響きました。「平和」を願う心の叫びのように頭に残りました。日本は現在、戦争が無い平和な時代で、国民は安全と安心を受けて生活することが出来ます。ところが世界を見渡すと、一部ですが戦争で毎日の生活が、安全に暮すことの出来ない国が存在しています。しかも現在も日々、死者が発生しております。未来のある弱者の子どもたちも大勢死んでいます。平和を目指すべき各国の指導者たちの一部が、戦争をしているのです。悲しいです。

各国ともそれなりの理由を述べています。しかし、戦争は何の解決にもならない。我々は過去を振

り返り、平和を求め、人間が安心して平安な生活を送る環境を築く使命があると思います。

世界には種々な宗教が存在しています。しかし、戦争を容認している宗教は無いのです。国や民族が異なっても、戦争を良しとしている国は無いと思います。各国の置かれている状況、立場で政治的、経済的に違いはあるでしょう。相手のことを思い、協力と協調の精神を持って、話し合いをして平和な世の中を築いていくことが重要だと思っています。

富める国と貧しい国との格差も一つの原因でしょう。そして宗教の違いも一つの原因かも知れません。でもどのような宗教でも、相手を責め、自己中心な考えの教えは無いと思います。それぞれの国々の人々が、崇拜する対象が違っていて、心から相手に対し、敬い尊ぶことは、各国とも同じ気持ちであろう。これからの未来は、人々が神に感謝して、相手を尊敬して生きていくことが、最も重要だと思えます。一人の力は小さくとも声を上げ、前に進む気持ちを心に持ち続けていたいと思います。

うるわしの白百合

尾藤美紗子

1954年版の讚美歌496番『うるわしの白百合』を最近好きになった。2020年の召天者記念礼拝で歌われたので、覚えておられる方も多いと思う。理由はその年のNHK朝ドラ『エール』にある。このドラマは作曲家古関裕而をモデル（主人公）に激動の時代、音楽で人々を励ました夫婦の物語で、一部はフィクション。その主人公の妻（役名・音（おと））が愛知県豊橋市出身で、実家が熱心な聖公会の信徒という設定だった。主人公（役名・古山裕一）は音と結婚、幸せな家庭を築くが太平洋戦争が始まり、主人公は戦意高揚を煽る歌の作曲を強いられ、苦悩し葛藤する。そして敗戦。場面は愛知県豊橋市の音の実家。空襲で焼け落ちた家の前で音の母、光子（演・薬師丸ひろ子）が歌うのが『うるわしの白百合』である。

当初の台本では光子が「戦争の

こんちくしょう！」と地面を叩くシーンだったが、薬師丸ひろ子から「ここは讚美歌『うるわしの白百合』を歌う方がふさわしいのでは？」と提案があり、立教大学の西原廉太氏にキリスト教考証を依頼。聖公会の聖歌集にこの讚美歌はないが、1931年版の讚美歌にあるとわかり、歴史上問題ないと結論づけられた。

そのシーン。光子がひとり静かにアカペラで1節を歌い始める。2節では戦争で命を失った者たちへのレクイエム、そしてここから未来へ歩み出そうという「再生」への決意が感じられ、号泣してしまった。おそらくクリスチャンに限らず、このシーンは多くの視聴者の心を震わせたに違いない。光子演じる薬師丸ひろ子の美しい独唱は全くカットされることなく3分間放映された。光子は『うるわしの白百合』を「祈り」として歌ったのだと私には思えた。薬師丸ひろ子は大学在学中にこの讚美歌を知ったそうで、提案した彼女の聡明さに感服する。こうして『うるわしの白百合』は私の愛唱讚美歌に加わった。

狩野進之佑牧師との懇談会報告

9月29日、秋の到来を感じる涼しい主日に愛知守山教会の狩野進之佑牧師をお招きして主日礼拝と懇談会が行われました。

当日朝、狩野先生が到着し、教会のドアを開けた途端、1階にいた教会員が拍手と歓声をもって迎えました。先生はエッ！という驚きのあと、それはそれは嬉しそうに何回もお辞儀をされています。当教会で伝道師として学ばれていた頃よりも笑顔が明るくなられて、元気に活躍しておられる様子が伝わりました。

守山教会の皆様から愛知名産のお菓子と、「狩野先生を送り出してください本当にありがとうございます。狩野牧師、本当に可愛らしい優しい方」という愛情溢れるお手紙を頂戴しました。この3年間どんな先生が信徒の皆さまに愛されてきたかを知ることができました。

礼拝後は狩野先生との懇談会です。多くの質問が飛び交い、先生を応援する教会員の熱量が伝わりました。先生は一つひとつに気取

ることなく、今の自分を語られました。教会での説教と業務と、キリスト教学校での聖書の授業だけで今は手一杯で、研究を掘り下げることができないこと、自分しかできない伝道の強みを見つけていないことを聞き、先生は正直な人だと改めて思いました。

それでも、先生お得意の手作りお菓子を囲んだ、信徒の皆様との懇親会を最近開いたことを伺い、先生は先生のタラントを活かして牧会しておられると嬉しかったです。時間はかかっても狩野牧師にしかできない伝道の形を見つけていかれるはず。その素晴らしい歌声もそうです。久しぶりに先生の歌う讚美歌を聴き、この歌声は先生の伝道の手助けをしてくれるだろうと感じました。

小学生の頃からの牧師になる夢をかまえ、神と人に愛されて歩む狩野牧師。これからも先生を応援していこうと思いました。

（石室裕一）

説 教

『福音の旅路』

使徒言行録8章26〜40節

日本聖書神学校4年 東出英幸

2021年、私は神学校に入学しました。その年の秋から東京教区で主事補として働き始めました。それ以来、平日の日は教区事務所、夜は神学校、と充実に過ごしています。

今日の御言葉では、異邦人であるエチオピアの宦官が、旅の帰りに神の導きによってフィリポと出会い、洗礼を授けられる出来事が述べられています。これは異邦人伝道の最初の洗礼者の話でもあります。フィリポとエチオピアの宦官の二人の旅での出会いと、ここにあられた福音の力について今回は触れてみます。

フィリポはエルサレムから追われたユダヤ人たちに、サマリアで福音を伝えて多くの人たちに洗礼を授けました。サマリアの人々が聖霊に満たされ、救いに与る喜びが溢れる中で、フィリポは更なる働きを求められます。主の天使は

フィリポに、「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザに下る道を行け」と命じます。そこは寂しい道でもありません。するとフィリポは一人の異邦人に出会います。エチオピア人の宦官です。彼はエルサレム神殿への巡礼から帰国の途中にありました。

しかし、去勢された宦官という理由で、神殿で会衆と礼拝をともにすることができなかつたのです。律法の定めの前で、神の民になれないと分かりながらの巡礼でした。その帰路は、まさに寂しい道だつたでしょう。馬車に乗って高価な聖書を持ち、イザヤ書を朗読する宦官でしたが、朗読箇所で語られる人物は一体誰なのかと何度も考えます。そこに聖霊に命じられたフィリポが駆け付けて、宦官に説き明かします。「イザヤ書53章7、8節の人物は誰なのか」。宦官は、それが自分か他の人物な

のかをどうしても確かめたかつたのです。その理由は、イザヤ書56章3〜5節に異邦人も宦官も救われることが述べられていたからです。律法を超えるこの言葉にエチオピアの宦官は心を揺さぶられました。彼にとって自分が救われるための核心がどうしても必要なのでした。

フィリポは宦官が朗読した御言葉に記された僕しもべを通して、イエス・キリストの十字架の出来事を示しました。イエス・キリストこそが、わたしたちの苦難をお分かりになる方であつて、受け入れてくださる方なのだと、フィリポは喜びをもつて福音を伝えました。宦官はこれを聞いて、イエス・キリストと共に生きていくことを即座に確信します。そして道を進み、水のある場所に差し掛かると、宦官は自ら洗礼を受けることをフィリポに志願します。車を止めさせて、二人は水の中に入り、フィリポは宦官に洗礼を授けました。

福音とは、このように瞬時に人の生き方を変える力があります。それは苦難や悩みに晒されながらも、なお生き続けようとする『命』

に作用している力と言ってもよいでしょう。それでは、この大きな力の源はいつたい何でしょうか。

それは「福音の力を司る聖霊」にほかなりません。洗礼は「古い命から新しい命に変えられること」を示します。そしてこの「死と復活」をあらわす洗礼に「聖霊」が十分に介在すること今日の御言葉は教えてくれるのです。39節には、「彼らが水の中から上がる」と、主の霊がフィリポを連れ去つた。宦官はもはやフィリポの姿を見なかつたが、喜びに溢れて旅を続けた」と述べられています。フィリポは聖霊の手引きで、次の伝道へ向かわされました。一方、聖霊はフィリポを通して宦官に福音を与えました。宦官は救われた者として、喜びに溢れて、寂しかった帰路を希望の道として母国に向かいます。これはやがてエチオピア伝道の礎となります。

すでに福音に与っているわたしたちは、喜びに溢れる旅を主イエス・キリストと共に、これからも続けて行きます。それも大きな喜びをたずさえて。

追悼

母の歩み

故・
門田敏子姉

9月19日、母は心不全のために急逝いたしました。当日の往診では、血圧も安定しており、食事やおやつも食べ、談話室で周りにスタッフや入居者もいる中、息を引き取ったようです。

父は、今の私より1つ下の59歳の時に癌で亡くなりました。当時、母は55歳でしたが、父の通院のために自動車免許を取得し、父の痛みを和らげるために線香状のものを使った温熱療法を学ぶなど、そのバイタリティと行動力には感心していました。父の死後も温熱療法の学院に通い、資格を取得して、後に建てた家には医療用ベッドを備えた治療室を作り、学院と自宅で永年、温熱療法を通じて多くの人と交わって参りました。

母が70歳の時に、東京都八潮高等学校同期会の文集に寄せた文章

から、一部転載します。

「私も現在、仕事に、水泳に、ダンスと、やりたい事が出来る幸せに感謝している。世間一般では、70歳は老女と云われる。でも、皆若々しい。私も夫の為にと学んだ温熱治療の資格が、現在仕事として生き甲斐となっている。今年で15年目になる。これからも、元気でいられる限り、続けて行きたいと思う。人生の残りの道のりは平穏であることを、祈りつつ」

84歳以降、心臓手術や骨折の治療などで入院し、自宅介護も続けていましたが、ケアが必要になり、一昨年から施設に入居しました。そこでも入居者と交わり、歌や書道、フラワーアレンジメントなどを楽しんでおりました。食欲もあって、この9月にも週ごとにスイカや、知人から送られたブドウを持っていくと、「おいしい、おいしい」と、喜んで食べていました。今は、父や母の両親・兄弟・姉妹と天国で再会していることを祈っております。教会の皆様には生前、深いご厚誼を賜りまして、心より感謝申し上げます。

(門田浩一郎)

母の思い出

故・
一井喜久子姉

母、喜久子はクリスチャンである奥原芳馨・春子の次女として大切に育てられました。穏やかで優しい性格でしたが、正義感が強く、厳しい一面もありました。

小学生の時に長野県松本市の親戚宅に疎開した後、地元の経堂小学校に戻り卒業しました。中学高等学校は恵泉女学園に入れていただき、かけがえのない毎日を通して、させていただきました。立教大学では大好きな英語を学び、翻訳家になることを目指したこともあったそうです。大学卒業後すぐに結婚し、家庭に入りました。

母との思い出は沢山あります。私たちが小さかった頃は、バドミントン、バレーボール、スケート、ボードゲーム等がよく一緒に遊んでくれました。また料理が得意で美味しい料理をいつも作ってくれました。動物も大好きでヨークシャーテリア犬を飼っていました。犬が甘えて母の足元で寝てし

まうと、起こしたらかわいそうだからとじっと同じ姿勢で耐えていました。また孫娘の成長をとても喜び愛情深く見守ってくれました。高齢になり体調が優れなくなつてからは、外出も思うようにならなくなりました。そのような中でも「明日はどうしても教会に行きたいの」と言っておりましたが、当日やはり外出は難しいと諦めることの繰り返しでした。

特別養護老人ホームに入れているただいからは、入居されている皆様と和やかに交流し過ごしていたそうです。職員の方々からは、「喜久子さんはいつも『ありがとう』と言ってくださるので、すよ」と教えていただきました。特別養護老人ホームには4年7ヶ月お世話になり、老衰のため10月2日に天に召されました。誕生日間近の86歳でした。体調が悪化し、厳しい状況を何度も乗り越え力強く生きる姿に、私たち家族は勇気ももらい励まされておりました。いつも家族を優しく見守っていた母は天に召され、奥原の祖父母に会えて喜んでいることと思います。

(一井和子)

西南支区「平和講演会」報告

2024年度西南支区「平和講演会」が、9月22日渋谷・美竹教会で開催されました。小嶋大造東京大学教授による講演題は「良き力に不思議に守られてーボンヘッファーの平和思想に学ぶ」でした。ヒトラー政権に抗して第二次世界大戦終結直前に刑死した「20世紀の殉教者」とも呼ばれる牧師・神学者であること、若い婚約者マリアとの、死が分かつまでの獄中『愛の往復書簡』が生み出されたことなど、彼の崇高な人間性については大方共有されていますが（死後80年経とうとするにも拘わらず）、「平和」はむしろ遠のいている現在、彼の神学思想が持つ意味や影響を学びました。

生かされている」という根源的な信頼の表現だそうです。そして「平和」の根源は、ミカ書5・4「この方こそ平和である」からで、神の恵みを受けた者は平和を生きた者へと変えられていく。つまり、ボンヘッファーの神理解は、「キリストがまことの人になってくださったので、私たちは人であることに絶望することなく、生きることができる」だそうです。「平和と核廃絶を祈る集い」では、三人の方のお祈りに合わせました。なお今年のノーベル平和賞が日本被団協に贈られることは、核兵器のない平和な世界を実現する草の根運動の成果とされています。最後に、当日の「Josingen」(ドイツ版日々の聖書)は、ミカ5・4(前述)及び1ペトロ3・9「悪をもつて悪に、侮辱をもつて侮辱に報いず、かえって祝福しなさい」でした！必然でしょうか？

今回の平和講演会では様々なことを学びました。西南支区社会部発行の平和講演集『キリストの平和Ⅲ』も拝見しました。実り多いひと時を与えていただき、深く感謝いたします。(大谷眞知子)

長老のファイル

秋の深まりとともに、日に日に日の落ちるのが早くなり、召天者を覚えて記念礼拝をもつ時期になったことを感じます。個人的なことで言えば、私のことを色々かわいがってくれた浅野牧生さんのことを思い出すときでもあります。信仰の先達の写真に囲まれて礼拝を守るとき、ともに神の宮に住み、平和の中に憩うときが約束されていることを心安らかに思います。

召天者記念礼拝では、多くの遺族の方がともに礼拝を守ります。敬虔なクリスチャンの遺族の方も、教会員ではない遺族の方もいます。この世で縁があり、神様に導かれ、この経堂北教会で神様に信じる者とされた故人の方々とともに過ごす召天者記念礼拝が、また新たにキリストと出会い、神様を信じる兄弟姉妹を神様が見出してくださる機会になることを願っています。

コロナ禍以降、教会員の高齢化などもあり、教会での様々な活動をそれまで通り行うことができない

くなりましたが、通常の活動ができるようになった今、経堂北教会にとつて様々な活動をどのような形で行うのがよいのかを長老会で話し合っています。今は、クリスマスに向けてクリスマス委員会が中心となり計画・準備を進めています。御子の誕生を祝うクリスマスが豊かなものとなりますように。

今、長老会が色々な教会の活動について話し合うときのベースにあるのは、今年度が岸先生の任期の最後であり、来年度新たに松谷祐二先生を迎えるということですから。私自身が教会で最も影響を受けたのは岸牧師(私が高校時代に出会った頃は伝道師)であり、良くも悪くもそれが私の教会に対する考え方を形作っています。ですが、牧師が教会の中心なのではなく、キリストが中心にいるということを改めて自覚しておくことが大切であると自分に言い聞かせています。長老職にあるものとして、松谷先生を牧師として迎えるのが教会形成が神様の御心にかなつたものになるように自分の務めを果たしていきたいと思えます。

(大友太郎)

牧師の書齋から

つくばと世田谷を週に2往復しています。約6時間かかっています。高速代、ガソリン代もかなりかかります。これまで、教会と牧師館を片道10歩、夜中だろうと思いついたら自由に行ったり来たりできたことと比べれば大違い。食事もうつも用意されていました。

23年前、牧師館に移るまではアパート暮らしでした。それまで4回転居しました。家族はともかく、

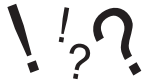
牧師館に住むことができるのは、仕事上とても便利でした。オン・オフがないのでは、と言われることがありますが、牧師としてはいつもオン状態です。いつ緊急の連絡が入るか分かりません。しかし燃え尽き症候群となるほど緊張したオン状態ではありません。自分を追い詰めるほど頑張ったわけでもありません。他の仕事をしたことがありませんので、仕事を云々することはできませんが、オン・オフの多少より、牧師の仕事そのものから慰めと喜びを得られるか

どうかだと考えています。説教、葬儀など正直申して本当に変です。主任者になったばかりの頃、土曜日、説教準備の最中に危篤や逝去の連絡が続いたことがあります。体力的にも徹夜が辛くなっていて、このままだと身が持たないと思いました。それから、説教の準備はよほどのことがない限り、金曜日には終わるように生活を変えました。教会外の仕事で忙しい時もそのスケジュールを崩さないようにしました。その後年齢的に厳しくなると、55才で

学校の非常勤を辞め、更に隠退に向け、教会外の仕事を辞めました。後進の方々が力を発揮するようになったという実情もあります。

このコラムを書くときは、同じ時期のものを数年分読み直します。そのせいかネタが似通ります。定年に向けて、ノートや日記、本を処分したことや引継ぎの準備について記しています。しかし、予定通りにはいきません。今も段階別ですが、後は皆さんにお任せするほかありません。(岸 俊彦)

個人消息



掲示板



- 合同礼拝・幼児祝福式
11月10日(日)午前10:15
- 創立87周年記念礼拝
11月17日(日)午前10:15
記念撮影
- アドベント 12月1日(日)

編集後記



▽私の愛唱讃美歌はⅡ編59番「すべてのもの統しらすかみよ」です。ブラームスの交響曲第1番第4楽章のメロディが美しく、力強い歌詞に元気が出ます。(酒井)

「栄 光」2024年11月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.cocacn.jp